第一学期　終業式　式辞

私からは、大きく２つのことを話したいと思います。

　最初は、皆さんのこれまでの頑張りについての話をします。

みなさんは、私が予想していた以上に欠席が少なく、頑張って登校することができました。当然感染症が拡大していますので、大事をとって外出を避けたことは仕方ないことですが、しっかりと登校できたことは素晴らしいことです。そして、感染症防止で毎日暑い中マスクをつけて授業を受けたり、楽しみにしていた学校行事が中止となったり、部活動の練習や公式戦が思うように行えなかったりと、苦しくそして残念なことが続きました。その様な中、きっと皆さんは、気持ちが晴れず、前向きに学校生活を送りにくかったのではないかと思います。しかし、皆さんはそれにめげず、落ち着いて友達と明るく学校生活を送っていることは、とても素晴らしいことです。君たちのたくましさを感じ、嬉しく思いました。

また、地域の方から本校生徒に対して２件感謝の電話もありました。それは、近隣の商業施設で気分の悪くなった人を介助してくれた生徒がいたこと。椎田駅前で困っているご老人にやさしく声をかけて道案内をしてくれた生徒がいたこと。お電話をくださった方は、大変喜んでいらっしゃいました。一見簡単そうに思えることですが、なかなかできることではありません。きっと私が知らないところでまだたくさんの人が良い行いをしていることだと思います。小さなことでも構いません。人を喜ばせ、人に感謝される行いができるようになってください。

２つ目は、この新型コロナウイルス感染症が拡大する中、日本中、世界中の人の心が弱くなり、元気がなくなっているのではないかと思います。このような状況の中、必要なことは、「人と人とが温かい気持ちで繋がること」ではないかと私は思います。やりたいことができず、思い通りにならないからといって、イライラして人を傷つけたり、嫌な思いをさせたりしてはいけないと思います。コロナ禍ではみんなが疲弊しています。今に限ったことではありませんが、家庭、学校、校外で、お互いを思いやり、気持ちよく前向きに生きていけるよう、私たち一人一人が努力すべきだと思います。

そこで、誰もが簡単にできる「あいさつ」を私はお勧めします。「オ・ア・シ・ス」で覚えている人もいるかと思いますが、「おはよう」「ありがとう」「失礼しました」「すみません」という気持ちのこもった言葉です。中でも「ありがとう」は誰もが言われて一番嬉しい言葉の１つであると聞きます。あいさつは人の気持ちを和らげ、よい人間関係をつくる第一歩だと思います。

おわりに、今年は２週間ほどの短い夏休みになってしまいましたが、心と体の疲れをとり体調を整え、自分なりの楽しみ方を見つけ、充実した夏休みを過ごしてください。

そして、みなさんが元気に２学期をスタートできることを願って式辞とします。